

ロボットで解決

人手不足で、ものづくりの現場は大わらわ。制御機器商社で地場大手の三光電業（西区商工センター）は、協働ロボットによる自動化で顧客の課題を解決する提案に力を入れている。7月24、25日に初めて主催した「ロボット展」（市中小企業会館）に1520人が来場。手応えを得たという。

3人のロボットS I 検定合格者ら専門スタッフが、多彩な機器を組み合わせながら改善策を練る。例えば、カメラと3次元認識でロボットアームに人間の目と脳のような機能を持たせ、ばらけた部品の整列や供給作業を分担。省力化や生産能力アップに貢献する。

昨年は南区比治山本町の展示場に訓練センターを設け、メーカー公認トレーナー6人を

配置。移動展示車も導入し各地に出向く。森脇喜美代社長は、

「最新の情報提供と最適な提案を心掛け、なくてはならない商社であり続けたい。当社スタッフのやりがいにも直結し、成長のステップを踏む良い舞台になっている」

ロボット展では子ども向けロボットカープログラミング体験教室や「ロボットアイデア甲子園」地区大会の見学会を併催。将来、同分野で働く若者が現れるよう、ロボットの楽しさを伝えた。